

2015.7.1

英語道弟子課程、弟子用特別稽古

英語道弟子課程、弟子

T.A.

1. 特別稽古

2015.6.26. 19:10~

主題: カッラッチ派、及びカラヴァッジオ主義絵画における美意識
(イタリア、バロック絵画)

内容: 森のギャラリーにて、イタリア、バロック美術に目をやり、
主にカッラッチ、カッラッチ派、及びカラヴァッジオ、
カラヴァッジオ主義絵画が表現する美意識に角虫れる。
絵画の鑑賞中、同時に、ヨハン・セバスティアン・バッハ作曲
マタイ受難曲 BWV 244 を同時鑑賞。

イタリア、バロック絵画に存する
『神聖なる美意識』

弟子における

- (1) 感性
- (2) 理性性
- (3) 神聖性

至り淨境地に到り、
稽古時間において

準エラウゼン・ドイツ英語 を用いて

(English spiritually pre-elevated)

特殊講義を行う場合がある。

★ 生井先生が、特別稽古のために、数時間にわたって、

- (1) 第二稽古場の掃除
- (2) 特別稽古のテラスに即した学習環境の構築
- (3) 稽古場の浄化。

「厳格、且つ、神聖なる空感」を創出している。

その都度、
それ相応の
準備が必要

平日・週末共に、既に分刻みの過密スケジュールで
一秒一秒を迎えていらっしゃる王井先生が、
弟子の人数分は、一つのテーマを何回も行う。

||

さらなる時間の捻出は決して簡単ではない

弟子は、このことを十分に認識・理解する。

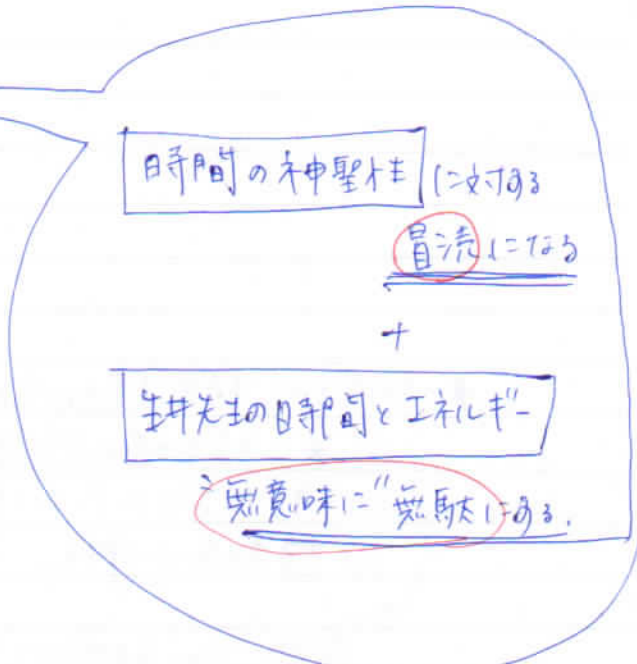
森のチャラーに入室の前には行くべきこと。
{ かつ、この「心の整理」を目的として。
 事前には「心の浄化」を図ること。

特別稽古は

世界レベルの崇高なる精神ステージを構築するために
開講される稽古。

弟子が 無思索状態
自分本位の考え
ローカルな損得勘定
私利私欲

で受講する



無意味に "無駄" がある。

〈はじめに〉

青争かに雨の降る中、森のギャラリーに到着しました。
 雨は自然と自分の内面を見る機会となるので、心は落ち着かせるには、
 ぴったりの天気でした。

何度が森のギャラリーを言われていますが、毎回、少し緊張してしまいがち。
 緊張で汗をかいていると、あじは涼しく整えられた部屋の温度下を下げた
 感じがします。植物たちにとっては、寒の気にかもしませる。
 生井先生はもちろんのこと、森のギャラリーの植物たちにも感謝です。

森のギャラリーで「果てしなく過」であるようにして「さ」は、
 一個の個人として、しっかりと、責任をもって今、この時を感ずること、
 しがるみやローカルな考えを捨て去ることを実感するために「あじ」と思いました。

全ての場内を清めてくださり、手洗いの座る位置から思索の中心となる
 絵画、置き物、植物のセティング。最後に生井先生は自身の身を清めて
 準備してくださりました。

— 〈導入〉 —

はじめに、生井先生が「ポイントを説明してくださること」、
 心に残っていることは、

カララシキ派、及び「カラウツァリシヨ」は何を伝えているのか？

どんな手法で伝えているのか？

生井先生は何を伝えているのか？

用意された森のギャラリーに飾られている絵画も全て関係のあるもの。

同時金鑑賞の299受難曲も、カララシキ派、及び「カラウツァリシヨ」絵画に
 合うものであること。

カラヴァッジョの時代

文化史・芸術史 全 6巻

日本では、安土桃山時代～江戸時代初期

<特殊講義>

生利率天正に於て、準エラヴエラット「英語」
行はし特殊講義

基督テーマ

バロック絵画初期に多大な影響を
与へたカラヴァッジョ絵画の一解釈

カラヴァッジョが表現しているもの

<聖書>

熱情をもって表現

鑑賞者の精神状態により、全く見方、感じ方が違う。
また、同じ人でも、その時の精神ステージによっても異なる。

地球上に存在する一個人としての自己を確立する。

自分を打ち立てる。

<音楽と絵画の金鑑賞>

はじめに、生井先生が、金鑑賞の絵画と音楽は関係のあるものを
選んでいると考へていて、それは、

音楽で絵が生き
音楽で絵が語り
音楽で絵が動く

というのを感じました。

用費して、これは絵画は沢山あり、
自分のコースで金鑑賞させていて、
一歩ずつ、ゆくりと金鑑賞してました。

主にカウラックの絵画を拝見してました。

私は、聖書の世界を通じて、人間を現しているのではないかと思ひました。

私も、部屋を、暗にして、ロウソク一本の火の中にいると
神聖な気持ちになります。

絵画も同じで、暗やみと光で照らされている場所には
神聖さが宿るようになります。

として、聖書の精神性は、人間の精神性を表すものであり、
人間の内面、精神世界がそこにあるように感じました。

特に、イエスキリストが人間としてこの世に誕生することの意味について
感じ、考へるようには、森の十字架に飾られた絵画や十字架につけられた
キリスト像から、音楽から、カウラックの絵画から感じました。

人間の形としてこの世に誕生して、
全人類のために自分を犠牲にされたこと。

実は、絵画金鑑賞の後、セルロイドから生井先生がおしゃった、
「自分の時間はない」という言葉にも、同じ響きを感じました。

うまく言えませんが、神は人の中にあり、他の人のために何か犠牲を払ってとして、それは神につながることでもあると思います。
だから、人を愛することは、神を愛することと同じだと思います。

イエスキリストは人間として自身を犠牲とこらまして、人間である意味があるのだと思います。

また「ま」は浅い考えだとは思いますが、このように感じました。

また、今回、赤い天使が多く登場していましたが、その表情に恐ろしいものもあり、もしかすると、天使は裏で悪でも存在して描かれているのかもしれないと思いました。